

防災は助け合いから

日本列島とその周辺では、震度1以上の地震が年間1500回ほど起きていますといわれます。平成7年の阪神・淡路大震災による被害は、死者6434人、住宅全壊10万4906棟にも及びました。後年、この未曾有の災害の検証から、防災対策は、自助、共助、公助の3つが重要だということが認識されました。最近では近助という言葉も生まれ、浸透しつつあります。防災対策の基本や防災訓練の大切さについて、この機会に一度考えてみませんか。

問い合わせ 市防災安全課 ☎ 43・8107

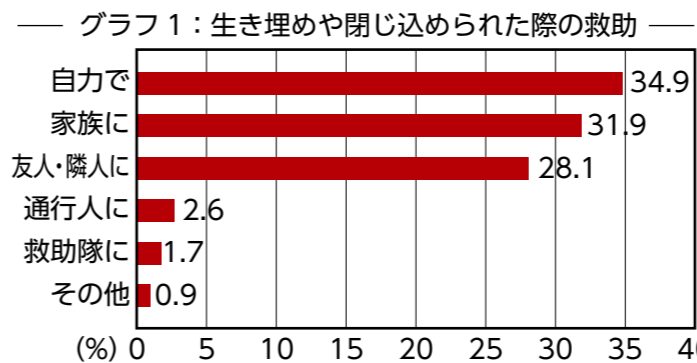
自助、近助、共助の大切さ

阪神・淡路大震災のとき、倒壊した建物に閉じ込められた人の救助と、地震によって発生した火災の消火活動を、行政が同時に行う必要がありました。そのため、行政機能はまひしてしまいました。そんな中、倒壊した建物から救出された人のうち、救助隊という公助によって助け出された人の割合は約1・7%だったという調査結果があります(グラフ1)。これは言い換えるならば、助かった人の98%

以上は、自助または共助によって助かったということですが、その自助、共助、近助、そして公助とは、どのようなものなのでしょうか。

自助

自分の命は自分で守ることが、防災の基本です。自分を守る事ができれば、家族や隣人、友人を助けに行くこともできます。救助される人ではなく救助する人になることが、自助の取り組みです。そのためには、緊急持出品の備えや家具の転倒防止対策を行うなどして、自ら備えておくことが大切です。



共助

第二次世界大戦時に「隣組」という制度がありました。その啓発の歌の中に、
 とんとん とんからりと隣組
 地震や雷 家事泥棒
 互いに役立つ用心棒
 助けられたり 助けたり
 という歌詞があります。時代背景は違いますが、近隣住民が救助、救護し合う重要な助けとなるということは、今も昔も同じです。隣近所にどんな人が住んでいるか知らなければ、その家に人が取り残されているかどうかも分かりません。普段の近所づきあいが

大切です。中でも自宅の近所、向こう三軒両隣が仲良くできていれば、いざというとき即座に助け合うことができます。これが近助であり、共助になるのです。

この共助を組織化したものが「自主防災組織」です。災害発生時の被害を防止または軽減させるために自主的に結成された組織です。市では郷づくりや自治会で結成されているところもあります。災害発生時の初期消火活動や避難誘導、避難所運営などが主な役割です。また、講演会などで防災知識の普及や啓発をし

たり、地域内の安全や設備の点検、防災訓練をしたりしています。訓練を通して地域間の交流を深め、お互いを知ることが防災力の向上につながるのです。

災害に立ち向かうには自助、共助、公助が補完し合う必要があります。そして、もしもに備えて、日頃から災害時のことを考えて行動することが、被害を最小限にとどめることにつながるのです。

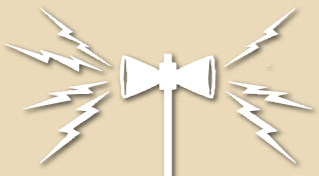
一人で避難が難しい人は

災害発生時に、家族などの手助けがなく一人では避難が難しい人の支援対策として、「避難行動要支援者支援制度」があります。登録すると、郷づくり協議会や社会福祉協議

会、消防署などに名簿が提供され、災害時の安否確認や避難者支援、消防署の救急活動に利用します。ただし、この制度は避難支援等関係者による任意の協力によるもので、災害時などの支援を保証するものではありません。

対象 市内在住・在宅の人で次のいずれかに該当する人
 ①要介護3～5 ②身体障害者手帳1・2級 ③療育手帳A ④精神障害者保健福祉手帳1級
受付、問い合わせ 市防災安全課 ☎ 43・8107、市福祉課 ☎ 43・8189、市高齢者サービス課 ☎ 43・8298

一斉防災訓練



11月11日(土)
 午前8時45分

防災行政無線による放送とサイレン吹鳴、エリアメールの配信をします。家庭や地域、学校、事業所などで、訓練への取り組みをお願いします。

大規模地震が発生したらどうすればいいのか、考え、行動してもらうことが目的です。安全確保のためには、慌てず行動することが大切です。どのような行動をとればいいのか、訓練を通じて身体で覚えておきましょう。

家庭でもできる防護訓練

地震の際の安全確保行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を身につけましょう。地震によるけがなどの大半は、家屋の倒壊やガラスの破片、落下物が原因です。安全な場所へ避難するより、移動距離を最小限にとどめることが重要です。

訓練は3つの安全行動を“その場”で行うだけ!



避難訓練では

安全を確認して屋外に出ます。その際、白いタオルを玄関先に掲げてください。「我が家は無事」という意思表示になります。タオルを掲げていない家の中には、家具の下敷きになって助けを求めている人がいるかもしれないということを意識しておきましょう。



▲阪神・淡路大震災で倒壊した家 (写真提供：神戸市)